

—美術部の副顧問も担当されているのですね。日頃、生徒と接する上で、意識していることなどありますか。

私は中学生時代、人と話すのが苦手で、辛いことがあっても先生に相談したり、保健室に顔を出したりすることはありませんでした。おそらく、中学時代の私のように、自分の気持ちを上手く伝えることができない生徒がいると思うので、普段から生徒の話聞く姿勢と丁寧な声掛けを意識するようにしています。中学生なので、直面した問題に対して、ある程度自分で解決する力を身に付けて欲しいとは思いますが、自分だけで解決できないことについては、先生や保健室を頼って欲しいと思います。



—最後に、保健室の先生になって感じたやりがいや、どのような保健室にしていきたいかなど目標があれば教えてください。

生徒たちは、中学校生活の3年間で大きく成長していきます。保健室の先生として、その成長を近くで応援しながら見守ることが、自分にとってのやりがいとなっています。狛江第四中学校に勤務する前は、私は大学病院の看護師をしていました。看護師の経験を通じて実感した健康であることの大切さや、大切な人たちと一緒に過ごせることがどんなに幸せなことかということを、生徒たちに少しでも伝えることができればと思っています。保健室は生徒みんなの場所です。これからも生徒みんなが安心して保健室を利用できるように、また、学校生活を送ることができるように寄り添っていきたく思います。



保健室の先生の仕事内容や子どもたちへの想いが良くわかりました！

佐藤先生の こだわり POINT!!

▼生徒が気軽に利用できるよう、温かい色味のソファやベッドを置いています。掲示物の中には狛江第四中学校の生徒が手作りしたものも！佐藤先生の愛情が感じられる保健室です。



▲美術部の副顧問も務める佐藤先生。
この鉢植えは美術部での活動である陶芸教室で手作りされたとのこと！